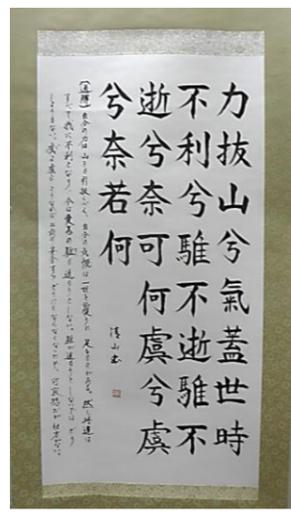


令和3年度 市民文化祭 狭山台会場 ～コロナに負けず文化の華を咲かせよう～

11月2日（火）～4日（木）展示・前期



史記-項羽本記「垓下歌」の一説。
項羽の辞世の詩。

・生け花展(さくら会) & 書道展(春墨会)

展示後期の学習室では生け花と書道のコラボレーション展示が行われ大盛況でした。生け花を中心とし、書道が囲むように展示されていて、部屋を歩いてすぐに和の世界に圧巻されました。



11月2日（火）～11月8日（月）動画上映

・動画上映

新型コロナウイルス感染症対策で公民館初の試みとなる動画上映での発表となりました。どの団体の映像も面白かったのですが、やはり一番多かった感想は例年と違いどのタイミングで行っても見たい団体を見られるというものでした。



おはなしのろうそくは、10月3日に開催した秋のおはなし会の様子を上映しました。



平成尺八会は講師を含め、6名で尺八演奏を何曲も収録していただきました。上映中は、大人から小さな子供まで熱心に尺八の雅な音色に耳を傾けていました。



ハ・レイ・オ・パカラナマリーエクラスのみなさんは、ウエスタ川越で発表したダンスを収録し、上映しました。



狭山台オカリナサークルのみなさんは、撮影にあたり入念な準備を行い、多様な楽曲を上映してくれました。

最後に

紙面の都合によりすべての団体を紹介することはできませんが、展示16団体、発表4団体でした。掲載した団体のほかにも、前期は、狭山台吟詠会、折り紙ボランティアたんぽぽ、後期は、絵画同好会パレット、狭山台絵画同好会、日本画倶楽部、NPO法人ジョイライフさやま、男の大学院、前期後期とおして狭山台写真サークル彩光会、手結び着付け同好会、また、狭山台南保育所園児のこども作品展など、どの団体もコロナ禍においても、これまでの活動の成果が十分伝わる展示や発表で、来年の文化祭がより楽しみとなりました。



絵手紙展(絵手紙ひよっこの会)
大谷選手やコロナ対策等、恒例の時事テーマの作品たち

・絵手紙展(絵手紙ひよっこの会)

はがきサイズの絵手紙作品は、166点が展示されました。

A4紙以上のサイズの作品が40点、ウチワ・扇作品が8点、手帳にまとめた作品が8点と様々な展示品があり、一点ずつ内容を確認し鑑賞するのがとても楽しく感じました。



・和紙ちぎり絵展(カタクリの会)

カタクリの会は講師を含め9名の同好会員が、複数の作品を製作し、合計40点が展示されました。

ちぎり絵展を見学した半数近くの方は、和紙を千切って作られた絵を「水彩画、又は油絵」と勘違いして鑑賞する方がいたようです。

例えば、仙波先生の「茅ぶきの里」のちぎり絵は、かやぶき屋根の雪、雪山景色、干しカヤに積もった雪景色などの、淡い色彩は、筆で染めたイメージ作品と勘違いしてしまう作品と感想を述べる見学者が多かったようです。



様々な和紙で作られた「茅ぶきの里」

11月6日（火）～8日（月）展示・後期

・木彫り展(木彫り桜会)

木彫り桜会は講師を含め5名で活動をしており、5名の会員にもかかわらず、55点の作品が展示されていました。優しいお顔をした木彫り仏像や陶磁器と見紛う程色彩豊かな木彫り人形など、どれも美しく作品一つ一つに強い想いを感じさせます。

木彫りの展示を熱心に見ていた60代のご夫婦。「知り合いの作品です。細かい点まで丁寧に入れ込んで掘っているね」「種類もいろいろと、楽しいわ」と2人は楽しそうに展示を見ていました。



←星野貴久さん作品。優しいお顔をした仏像2点